

■ 貫く棒の如きもの ■

年の瀬が近くなると、「今年の〇〇」が取り上げられる。「今年の一皿」は鯖。そう言えばTVで取り上げられるたび鯖缶がスーパーから消えた。「日本カーオブザイヤー」はボルボ。日本の賞なのに外国車とは。「ヒット商品番付」の、東の横綱の安室奈美恵は既に引退、西の横綱の Tik Tok はこれからが本格的なブームか。

「今年の漢字」は本日の午後2時に発表である。夏の強烈な暑さから、「暑」「熱」あたりか。北陸では記録的な大雪も降ったが、全国的ではないので「雪」は落選だろう。平成最後なので「終」なんてどうだろう。縁起がよくないか。

新語・流行語大賞も年末恒例行事として市民権を得ている。ノミネートされた言葉からいくつかを使って、生徒たちへ冬休みに向けてのメッセージを書いてみた。いかがだろうか。

生徒の皆さん、**災害級の暑さ**の夏から季節は移り、もうじき冬休みですね。クリスマスやお正月など、皆さんにとってうれしい時期ですが、**eスポーツ**に励むなどと称してゲームに終始したり、**#MeToo** と便乗して遊びほうけたりするのはやめましょう。勉強が滞っても、**スーパーボランティア**が助けに来てくれることはありません。

先生のありがたい助言を**そだねー**と受け入れる素直さが大切です。できれば、勉強も部活動もしっかりやって、今年の生徒たちは**半端ない**ってと言われたいものです。まかり間違っても、**ポーっと生きてんじゃねーよ!**と言われたいような冬休みにしてくださいね。

3年生の皆さんは、受験直前です。仕上がりになる焦り気持ちがあっても、人様に対して自分自身に対しても勉強の**あおり運転**はしてはいけません。時には休憩ともぐもぐタイムを入れて、疲れたときには、思い切って**計画運休**しましょう。少し休んでもこれまでの勉強で鍛えた脳の**筋肉は裏切らない**はずです。受験では、**君たちはどう生きるか**が問われます。最後まで全力を尽くすことができるようお祈りしております。

まあまあ、うまくまとまったかな、と自己満足に浸っていたら、1年学年便りが目に止まった。タイトルに「去年今年貫く棒の如きもの」(高浜虚子)とある。

いつの時代にあっても、いくつになっても、人として成長するためには不断の努力が必要であり、学校が持つ「努力することが報われる文化」は、学校教育の不易である。赴任してからの9カ月とこの1年を振り返りつつ、ウケを狙って文章を書いていた私はいたく反省させられた。

明倫高校にも明確な教育目標がある。生徒も先生もそれに向かって邁進している。自分たちの進むべき道は暦が替わったくらいでは微動だにしないと誓いを新たにしたい。